

韓国文学はなぜ面白い？

韓国文学翻訳家 斎藤真理子さん講演会

12月13日（金） 午後2時～4時

◆会場

生活クラブ生協会議室 JR埼京線「中浦和」徒歩3分
さいたま市南区別所 5-1-11

◆参加費

1000円（テキスト代込み）

斎藤真理子（さいとう・まりこ）さんプロフィール

訳書に、パク・ミンギョ『カステラ』（共訳、クレイン）、『ピンポン』（白水社）、チョ・セヒ『こびとが打ち上げた小さなボール』（河出書房新社）、ファン・ジョンウン『誰でもない』（晶文社）、ハン・ガン『ギリシャ語の時間』（晶文社）、チョン・ミョンガン『鯨』（晶文社）、チョン・スチャン『羞恥』（みすず書房）、チョン・セラム『フィフティ・ピープル』（亜紀書房）などがある。『カステラ』で第1回日本翻訳大賞を受賞した。最新刊は『回復する人間』（白水社）。季刊『社会運動』にエッセイを連載中。



日韓関係が冷え込むなか、韓国文学がいまブームになっています。昨年12月に発刊された日本語版『82年生まれ、キム・ジョン』では、韓国の女性が日常で経験する差別を描いていて、日本の読者にも大きな共感を与え話題となりました。韓国文学では「若い世代の作家が歴史に足腰を支えられているのも大きな魅力」と語る斎藤さんに、韓国文学の面白さをたっぷり語っていただきます。どうぞご参加ください。

■お問合せ・お申込み NPO法人大人の学校 <http://www.otonanogakkou.org/>
電話・ファックス 048-866-9466 メール otonano-gakkou@cure.ocn.ne.jp
生活クラブ生協 共催